

陸奥湾 漁場環境調査情報

平成 16 年 11 月 9 日
水産総合研究センター
増養殖研究所
電話 017(755)2155

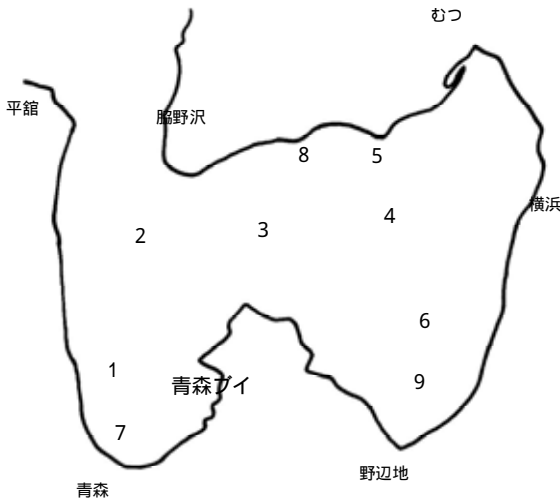
今年実施した底質調査(7月6~7日、9月6,16日実施)及びブイデータから貧酸素監視のために10月4日に実施した青森ブイでの臨時水質調査の結果がほぼ判明しましたので、その調査内容と結果の概要をお知らせします。

水質調査結果

10月4日の青森ブイ地点での15,30,34,40,46,48mの溶存酸素量は、5.7~7.5mg/Lの範囲で全観測層で夏季の酸素量が低下する時期の底層の最低値の4.3mg/Lを超えており、調査時点では貧酸素または低酸素状態は認められませんでした。しかし、東湾ブイの観測結果では、その後10月16日から再び低酸素状態が確認されました。その後海水の鉛直混合が底層まで達したため、10月23日以降酸素量は回復しています。

底質調査結果

ILは1.9~9.8%、TSは0.01~0.27 mg/g、CODが3.2~37.9mg/g、含泥率が2.8~73.7%の範囲で、図に示したとおり、全項目とも平成8年からの調査結果の変動範囲内であり、湾全体での有機的な汚染の進行は認められませんでした。また、沿岸寄りの調査地点であるSt.7,8,9では変動の大きいTSを除き、低い値で推移しています。



- 調査項目 ()内は日本水産資源保護協会「水産用水基準 2000」の基準値
- IL 海底泥の強熱減量、堆積物を高温で加熱した際に燃える有機物の量。
 - TS 海底泥中の全硫化物量。(0.2mg/g 乾泥以下)
 - COD 海底泥中の有機物量。(アルカリ性法で20mg/g 乾泥以下)
 - 含泥率 海底泥の63 μm以下の泥粒子の重量百分率、細かい泥には有機物が多い。

これらの4項目は全て底質の有機汚染の指標で、数値が高いほど汚染が蓄積しているといえます。

底質調査地点

